

# 令和6年度 郷土調査委員会 事業概要の報告

委員長 田口浩一郎(木曾町中)  
副委員長 平原 稔久(日 義 中)  
委員 青野 緑(開 田 小)  
塩原 咲耶(三 岳 小)  
藤巻那奈子(王 滝 小)

## 一 本年度の事業概要

### 1 郷土館の管理・運営

- ① 展示物の点検・保存処理（古文書類の保存状況確認）
- ② 郷土館内の清掃・整理
- ③ 「山の神」像の管理
  - ・①～②については、7月29日（月）会館清掃に合わせて実施
  - ・③については8月2日（金）に実施
- ④ 教育会受入図書の整理
  - ・2月21日（金）実施予定

### 2 郷土館所蔵品の活用

- ・活用方法については、具体的な活用についてさらに検討していく。

### 3 文化財他機関との連携と協力

- ・木曾郡文化財保護連絡協議会研修総会（上松町）5月21日（火）  
委員長参加予定だったが体調不良により欠席

### 4 調査研究

- ・第55回郷土見学遠足の計画・実施
- ・期 日 令和6年7月24日(水)
- ・方 面 木曾北部方面
- ・テーマ 木曾北部・木祖村の産業に触れよう  
～お六櫛づくりを体験し、ブランド野菜「御嶽はくさい」、「木曾路」の湯川酒造を訪ねて～
- ・見学場所（コース）  
藪原駅 → 木祖村役場前駐車場（開校式） → 湯川酒蔵 → 集荷場・白菜畑見学  
→ 昼食（志とめ） → お六櫛体験・木祖村郷土館見学 → 木祖村役場前駐車場（閉校式）  
→ 藪原駅
- ・参加者 11名
- ・推進経過  
計画立案 4月15日(月)  
見学場所下見 6月4日(火)  
パンフレット(案内状)発送 6月21日(金)  
申し込み締め切り 7月5日(金)

## 二 事業の成果と今後の課題

### 1 有益であったこと

#### (1) 郷土館の管理・運営

- ①教育会館清掃にあわせた郷土館の清掃・点検・保存処理。
  - ・郷土館清掃にあわせて短時間ではあるが、保存状況を確認しながら防湿・保存処理等行うことができました。
- ②木曾町の福島郷土館に管理をお願いしてある「山の神」像の清掃と点検。
  - ・1年に1回、郷土館清掃に合わせて実施しているが、今年は閉館だったため別日に実施。保存状況を確認しながら清掃を行うことができました。

③教育会館図書室での受入図書の整理作業。（2月21日（金）実施予定）

- ・他郡市刊行物や寄贈図書を受け入れ、記録。図書室の書棚に整理保管。
- ・翠山保管の過去の郷土見学遠足テキストの整理整頓も行う予定。

(2) 郷土館所蔵品の活用

- ・活用方法について検討を重ねている。

(3) 文化財他機関との連携と協力

- ・参加できず、残念だった。

(4) 調査・研究

①第54回郷土見学遠足の計画・実施

- ・昨年度に続けて「郷土見学遠足」を実施することができた。内容については、コロナ前に実施していたように、見学場所で説明をお聞きしたり、体験的な活動(本年度はお六櫛作り体験)を取り入れたりすることができた。11名の方に参加をしていただき、実施できてよかった。
- ・夏期大学や高校の体験入学などの関係で、7月24日の実施となった。夏休みに入ってしまうというタイミングでの実施となったが、計画(内容や日程など)、準備(バスや運転手さんの手配、食事の手配など)、実施(当日の運営)と滞りなくできて良かった。

2 今後の課題

(1) 郷土館の管理・運営

- ①教育会館清掃にあわせた郷土館の清掃・点検・保存処理や「山の神」像の清掃と点検を今後もしっかりやっていく必要がある。
- ②教育会館図書室での受入図書の整理作業を行っているが、図書室の棚がいっぱいになっており、昨年度もおこなったが、受け入れ作業と合わせて書棚の整理作業を継続して行っていきたい。

(2) 郷土館所蔵品の活用

- ①郷土館所蔵品の活用をどのようにしていくのがいいか、検討を重ねていきたい。郷土館にある「山の神」についても広く会員に知らせていきたい。

(3) 調査・研究

①郷土見学遠足について

- ・今年度の計画は、感染症の対策をとりつつも、コロナ禍前に行っていた体験的な活動を入れて計画することができた。参加者も15人を超えると「お六櫛作り体験」の講師や場所の関係で実施が難しくなってしまうため、参加人数を15名とし超えた場合は抽選としたが、抽選をしなくても実施できた。今後も、体験的な活動を取り入れていきたいが、人数制限等ができるだけないように活動内容を検討していきたい。
- ・昨年度よりも早くから準備ができたが、夏期大学や高校の体験入学などの関係で、7月24日の実施となった。推進日程としてはほぼよかったと思われるが、実施日については検討していきたい。
- ・「郷土見学遠足」は郷土を知る意味でも社会科等の教材化の上でも大変有効な機会であるので、特に初めて木曾に来ていただいた先生方を中心に呼びかけたり、「清音の会」の先生方に案内のプリントを送付して参加を募ったりして、参加者が増えるよう工夫していきたい。

三 次年度の予定

- ・来年度の郷土見学遠足は、木曾中部方面を予定している。